

I あなたがた（神の家族である教会）は「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられている」：20。「使徒たちや預言者たちという土台」。

「使徒と預言者」とは、使徒達と預言者達は、神の御言葉を受けた人々であり、彼らの使命は、神からの御言葉を語る事であるので、「使徒と預言者という土台」とは、教会の土台は、彼らが語った神の御言葉という事。教会の土台は、66巻の聖書（旧約39、新約27巻）。私達は聖書を「全体」と「文脈」を大切に読み味わう事、私的解釈をしない事が大切。真のキリスト教とは違う異端（間違った教え：モルモン教、エホバの証人、統一教会等）の特徴は、①聖書全体を正しく解釈しない、②聖書に別の教えを加える、③聖書のある部分を取り除く事。私たちの教会が、66巻の聖書、不動の御言葉に立ち続けるなら、嵐や試練がやって来ても、御言葉が、主ご自身が、しっかりと私達を支えて下さる。ディボーションの御言葉、教会員に祈られて語られる礼拝の御言葉（基本は講解説教。聖書そのものが語っている事に聞き、養われる為）、グループで分かち合う御言葉は、私達を霊的に養っている。じわじわと。本日の御言葉は、「建てられている」と受け身で言われている。つまり、私達の力で教会を建てているのではなく、主ご自身が御言葉によって教会を建て続けておられる！実感し続けている。「みことばは、あなたがたを成長させ（この原語は、本日の「建てられ」と同じ原語）」使徒20：32。

II 「キリスト・イエス御自身がその要の石です」：20

教会の土台はイエス御自身であり、イエス御自身のみことば。「その土台とはイエス・キリストです」I コリント3：11。土台である主と主のみことばは、私達を支え、導いて下さる。どんなに苦しい時も、主（主と主のみことば）から目を離さず主に拠り頼もう！「信仰の創始者であり完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。イエスは、ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず十字架を忍び、神の右の御座に着座されました」ヘブル12：2

III 土台があるかないかの違い。

1. 土台がない人生、教会。「わたしのこれらのことばを聞いて、それを行わない者はみな、砂の上に自分の家を建てた愚かな人にたとえることができます。雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけると、倒れてしまいました。しかもその倒れ方はひどいものでした」マタイ7：26, 27。試練の時こそ、自分の人生の土台、教会の土台が何かが、分かる。※「もし私が、そして教会が主を土台としていなかったら」と考えてみたい。試練が起こると、もっと落ち込み、揺れ動いている事だろう！しかし、主を土台としているなら、主に拠り頼み、主は支え続けて下さる。感謝！

2. 土台のある人生、教会。「わたしのこれらのことばを聞いてそれを行う者（御言葉を頭の知識ではなく、日常生活で、御聖霊の力に頼り実践する、御言葉を信頼して生きる者）はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができます」マタイ7：24。「わたしのもとの来て、わたしのことばを聞き、それを行う人がみな、どんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せても、しっかり建てられていたので、びくともしませんでした」ルカ6：47, 48

建物で、土台は最も大切なものである。傾きや地震の時の倒れ方の差は、しっかりした土台かそうでないかが左右する。※現実にも分かる。傾いている家。地盤が悪い所。※スポーツ選手（野球、卓球、テニス他）の土台、要は？体のどこを鍛える事が、基礎、土台か？どの選手も、地味ではあるが、土台、要となるこの部分をコツコツと鍛えないと（適量を走る事、柔軟が基礎）、長い間、活躍は出来ない。

3. 砂の上に建てる教会、私達の人生とは。砂という土台に当たるものとは？①聖書の教えではなく、人間の教え、思想。これらは、真の救いは与えない。②イエス様ではなく、自分の力、人の力。人間の力では、私達は救われない。③世の富。世界中の富を集めても、私達に真の救い（罪の赦し、新しい人生、永遠の命、天国）を成就する事は出来ない。お金では、数えきれない罪の赦し、永遠の命を買う事は出来ない。お金の執着し、欲張りな人は、幸せにはなれない。※与えられているものを感謝する人こそ、幸いな人。④世の権力。神から離れた世の権力は、人々を不当に支配し、自由を奪い、戦争を起こす。世の権力は、私達に真の救いを与えない。世の権力、世の高い地位にしがみつくと人の心は、人を縛る支配者とし、その人の心は次第に腐って行く。⑤一時的な罪の快樂。これらは、真の救いを与えず、かえって私たち人間を悪習の奴隷とし、悪への中毒や、依存症を産む。身も心も仕事も家庭も滅ぼして行く。主の力と主が与えて下さる仲間、神の家族の祈りと交わりは、これらの悪から解放し、新しい人生を下さる。⑤自分の意志。ころころと変わってしまう。強い決断も、もろい。「立っている（自分は大丈夫!）」と思う者は、倒れないように気をつけなさい」Ⅰコリント10：12

Ⅳ 私達への励まし

1. 教会が、主と主の御言葉をしっかりと土台として建て上げられて行くなら、間違った教えが入って来ても、御聖霊が、「それは違う教えです」と悟りを与え、正しく、御言葉で導いて下さる。

2. 「雨が降って洪水が押し寄せ、風が吹いてその家を打ちつけたが、それでも倒れませんでした。岩の上に建てられていたからです」マタイ7：25。申命記32：4にこうある。「主は岩。主のみわざは完全」。教会の土台であり、私達の人生の土台である主は、どんな試練の中でも、教会を、私達の人生を岩なる不動の土台として下からしっかり支えて下さる！申命記33：27→「永遠の腕が下に」。主は、私達を支えて下さる！

3. 教会の土台である主と私達は、靈的に命の結びつきがある。クリスチャン生活とは、自分の力で聖書のみことばを守ろうとする事ではなく、主の命に与かり、その活力と力が内に働く恵みを経験する歩みである。土台であるキリストが十分な力と生命力を注ぎ込んで下さるので、強められて歩むことが出来るのである。私達は一人で放り出されてはいない。一人で勝ち目のない戦いを空しく続けているのではない。主ご自身からの素晴らしい力が注がれており、私たちの内に与えられている。主の命、力が、私達の活動力の源となり、活力、生命力となっている。この岩、土台であるキリストの力によって、私達は、試練や惑わしの間違った教えに、正しく対処する事が出来る。このエペソ人への手紙を書いたパウロは、不正をしたわけではなく、主に従い主の素晴らしい福音に仕え、獄中にいた。人生で多くの苦汁を味わい、様々な試練を体験して来ている。迫害され、嘲笑と非難の的とされた。そのような中で、彼は、愛、喜び、平安、不動の支えを持っていた。それは、素晴らしい主と出会い、主を信じ、主を人生の土台に据えたのである。

4. これから、ますます、私達の教会は、間違った教えの風に吹き回されないように、教会の土台である66巻の聖書を大切に読み、味わい、養われたい。神は私たちの教会をいのちの御言葉で導き養われる。また、私達も、主と主の御言葉を土台として人生を築いて行きたい。真の土台である主は、御言葉で正しい道に導かれる。罪の悔い改め、罪の赦し、癒し、試練の中でも力強い支えを与え、永遠に素晴らしい神と交わる事が出来る永遠の命を与えて下さる。心から感謝したい！どんな時も、あわてず、あせらず、あきらめずに全能の神に祈りつつ歩めますように。「いつでも祈るべきであり、失望してはならない」ルカ18：1